

選挙区規模の変化と選挙行動

合併に伴う新市選挙を例に

The Change of Constituency Size and its Effect on Electoral Behavior

大川 公一

Ohkawa Kouichi

はじめに

市町村合併に伴って多くの新市選挙が行われている。その際、合併前の旧市町村に対する配慮から、最初の選挙では旧市町村を単位とするいわゆる中選挙区制をとるケースが少なくない。旧市町村をそのまま単位とし、しかも定数に大きな変化がない場合は、集票側から見ても投票側から見ても変化の程度はそれほど大きくないと言える。しかし、同じく中選挙区制を採用する場合でも、旧町村をいくつかまとめて一つの選挙区を作るケースでは、選挙区の規模がまず地理的に拡大する。加えて定数が大幅に削減された場合、二重の意味で選挙区規模が大きく変化する。地理的に拡大されることは、候補者から見れば集票対象となる未知の有権者が大量に生まれることを意味するし、定数が大幅に削減されることは通常はいわゆる激戦を意味し、より多くの集票が求められることになる。市町村選挙はいわば底辺の選挙であり、一般に党派性が正面から争われることはそれほど多くない。中選挙区制では、保守系候補者の地区割り幅広く行われていると指摘されてきたが、市町村レベルでは保守系候補のみならずそれ以外の候補であっても、地区代表的な性格を持っていることがある。この点で、有権者に対する政策アピールの変化と絡めて集票行動を検討することは難しい。このような選挙では、選挙区規模の大きな変化はどのような集票行動を促すであろうか。市町村選挙では開票区はひとつであり、投票区によって投票率はかなり異なることがあるものの、それぞれの投票傾向をみることはできない。そのため、旧市町村の選挙と新市の選挙との同一レベルの比較、県議選、衆院選、参院選との異なるレベルの比較を通して、ごく限られた範囲ではあるが選挙区規模の変化と選挙行動の関連を考察してみたい。

通常は市部に比べて町村部の方が投票率が高いが、集票努力の全体としての動員効果は投票率の変化に現れるかもしれない。この点で、変化の程度を旧市町村間での比較や異なるレベルのそれと比較しながら評価しよう。同時に、選挙区規模の拡大に伴う集票の期待値を考えれば、個々の候補者の集票努力をみる場合の参考になる。また、一般に、選挙区規模が大きくなれば集票状況の変化やそれに伴う当選順位の変動が起きやすくなると推測されるのではないか。ひとつには、新しい状況で集票に成功する候補とそうでない候補との差が開くことがありうるであろう。また他方では、各候補の集票努力が接近することによって逆に差が小さくなることも考えられる。さらに、一般的には、選挙区規模が小さい場合は、小政党は当選可能性が低いことから候補者擁立意欲が低下するが、選挙区規模が大きくなればその意欲は高まると考えられる。この点からは、党派構成の変化を検討することができよう。

ここで取り上げるのは、2005年4月に行われた新富山市の選挙である。この選挙では、旧富山市、旧婦中町と旧八尾町、旧大沢野町と旧大山町がそれぞれひとつの選挙区を構成し中選挙区制がとられるとともに、特例を適用しなかったため旧市町時代に比べて定数が減っている。この点で、格好の対象と思われる。以下では、新旧の党派別得票率比較、投票率の変化と票の実数の増減、当選者・候補者の各指数の比較、各候補者の得票

のばらつきの程度、連続立候補者の集票力比較、異なるレベルとの比較などを通して、選挙区規模の変化が与える影響について検討する。

投票率と得票率

まず、旧市町選挙と新市選挙の投票率を比較する。旧市町については、合併前の最後の選挙の投票率である。したがって、市町によって選挙年が多少異なることを断っておく。旧町については、新選挙区と比較するため平均値を用いた。

下の表は投票率の変化を示したものである。富山選挙区で2.3%上昇しているが、婦中・八尾選挙区で6.26%、大沢野・大山選挙区で2.81%の低下がみられる。富山選挙区の上昇分は票の実数でみると6000票近くになり、これはトップ当選の候補者の得票数よりも多くなる。トップ当選の候補者の得票は前回選挙と比べてほとんど変わらないので、増加分は他の候補へ流れたことになり、結果として候補者間の票差が縮まったことになる。

投票率の変化

	旧市町選挙	新市選挙
富山	54.93%	57.23%
婦中・八尾	80.39%	74.13%
大沢野・大山	77.43%	74.62%

次に、全候補者について党派別の得票率を新旧で比較する（数値はすべて％）。

旧富山市

	相対得票率	絶対得票率
自民党	64.58	35.08
無所属	7.23	3.93
民主党	5.15	2.80
社民党	6.48	3.52
公明党	9.45	5.13
共産党	7.11	3.86

旧婦中町

	相対得票率	絶対得票率
自民党	18.37	13.84
無所属	65.24	49.15
社民党	6.46	4.86
公明党	4.88	3.68
共産党	5.05	3.81

旧大山町

	相対得票率	絶対得票率
無所属	93.90	72.10
共産党	6.10	4.69

旧八尾町

	相対得票率	絶対得票率
自民党	3.82	3.22
無所属	86.17	72.47
社民党	3.38	2.85
共産党	6.62	5.57

旧大沢野町

	相対得票率	絶対得票率
自民党	7.05	5.36
無所属	69.34	52.70
社民党	11.80	8.97
公明党	6.55	4.98
共産党	5.26	4.00

表から明らかなように、富山市では無所属は少ないが、旧町では無所属が多く、特に旧大山町では無所属以外は共産党しかない。ただ、無所属のほとんどは保守系である。

次に、新富山市選挙の数値を示す。比較の都合上、旧八尾町・婦中町と旧大沢野・大山町を合わせて考えてみると、富山市では目立った変化はないが、八尾・婦中と大沢野・大山では無所属が減って、自民党が増えてきている。ほかの党派は相対的に小さく、変化の幅も大きくない。

新富山選挙区

党派	相対得票率	絶対得票率
自民党	63.20	35.62
無所属	8.86	5.00
民主党	5.68	3.20
社民党	4.61	2.60
公明党	10.84	6.11
共産党	6.80	3.83

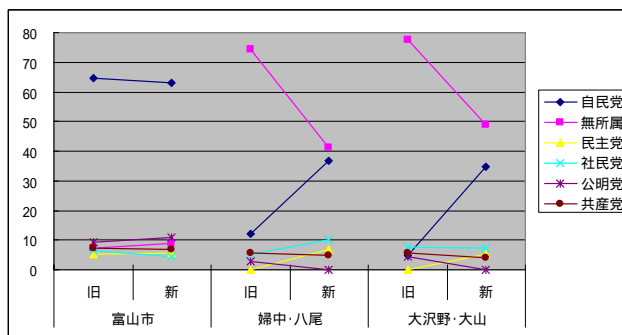
新大沢野・大山選挙区

党派	相対得票率	絶対得票率
自民党	34.79	25.50
無所属	48.82	35.78
民主党	5.31	3.89
社民党	7.11	5.21
公明党	0.00	0.00
共産党	3.98	2.92

新八尾・婦中選挙区

党派	相対得票率	絶対得票率
自民党	36.90	27.02
無所属	41.09	30.09
民主党	6.91	5.06
社民党	10.06	7.36
公明党	0.00	0.00
共産党	5.05	3.70

相対得票率の変化について、グラフ化したものを下に示す。変化の程度が視覚的にも明らかである。



富山選挙区では選挙区規模の地理的な拡大がなく、定数削減による規模の変化だけであったが、それもほかの選挙区に比べれば最も幅の小さいものであった。もともと県内最大の都市部であり、無所属での立候補は少なかった。そのため、政党化傾向について特に指摘すべきところはない。しかし、富山市に比べて農村的な大沢野・大山と婦中・八尾において、政党化傾向が明確にあらわれている。連続して立候補している候補者が多いが、候補者を個別にみると、この「政党化」は保守系無所属から自民党への看板の架け替えである。この変化が選挙区規模の拡大に伴うものであるのかどうかは必ずしも明らかではないが、選挙区規模が拡大することに伴って新たな対象となった未知の有権者にアピールする際に、もっとも明瞭な目安は党派性であろう。また、大沢野・大山と婦中・八尾では自民党への変化の程度が同等であり、それに比べて他の党派の変化は微小である。この規模の変化は自民党以外の他の政党の立候補意欲を強く刺激するほどではなかったことになり、結果としてそれらの政党の得票増大につながっていない。上の党派別得票率比較は全候補者についてみたものであるから、投票者全体の票の出方を示していることになるが、有権者レベルで考えても、規模の拡大が他の政党に得票増大の余地を与えているとは言いがたい。

得票の期待値

ここで、旧富山市以外の二つの選挙区について、各候補者の集票の程度を推測するために、集票の期待値を仮定してみる。婦中・八尾選挙区も大沢野・大山選挙区も、それぞれ旧町からみた選挙区規模の拡大の程度があり、それに基づいて連続立候補者の得票の期待値を仮定する。次の表は、旧町から見たそれぞれの選挙区規模の拡大の程度を示している。なお、当日有権者数自体の変化は前回選挙時とほとんど変わらないので無視した。

旧町	当日有権者数	有権者数の変化の程度
大沢野町	18244	1.50
大山町	9179	2.99
婦中町	28100	1.64
八尾町	18081	2.55

下の期待値は、拡大の程度から算出される数値に投票率の変化を乗じてコントロールしたものである。大沢野・大山選挙区は定数 5、婦中・八尾選挙区は定数 7 である。ただし、婦中・八尾選挙区は当選者の中に新人が 1 名いるため、この表では上位 6 名までが当選者となる。() 内は前回選挙時の党派。

大沢野・大山選挙区

	党派	得票数	期待値
高尾道明	自民(無所属)	3637	3226
浅生幸子	無所属	2725	1378
植野稔	自民	2094	1455
稲垣照夫	無所属	1971	1320
岡本保	無所属	1956	2562
長澤邦男	無所属	1490	1002
宮崎周二	社民	1429	1428
大田清夫	自民(無所属)	1261	1665
村上太三	民主(無所属)	1067	1215
坂田克司	共産	800	1086

婦中・八尾選挙区

	党派	得票数	期待値
宮前宏司	自民(無所属)	3520	2287
金厚有豊	自民(無所属)	3504	1904
柞山数男	無所属	3316	1590
有澤守	無所属	3045	1733
深井清作	民主(無所属)	2336	2177
井上辰男	自民	2076	1577
村山栄一	無所属	2011	1769

若林伯治	自民	1770	1789
五十嵐正子	共産	1709	1702
柞野勝彦	自民(無所属)	1610	2203
場家茂夫	無所属	1534	1748
山口和雄	無所属	1444	1659
八尾和久	無所属	964	1343
石崎寛治	無所属	452	1573
亀山繁盛	無所属	438	1112

いずれの選挙区の場合でも、全体として当選者は期待値以上の集票をしており、反対に落選者は期待値を下回るという傾向がはっきりと出ている。大沢野・大山選挙区で次点候補者が期待値を上回っており、最下位当選者が期待値を下回っているのが例外となっているが、これは両者の間にもととの票差があるため当落の結果に関連していない。婦中・八尾選挙区では第1位当選者から次点候補者まですべて期待値を上回っており、上記の傾向がより強く出ている。これらの当選者は、新人をのぞいて、すべて前回選挙でも当選している。

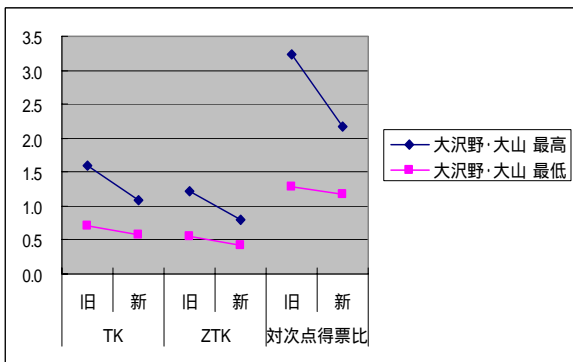
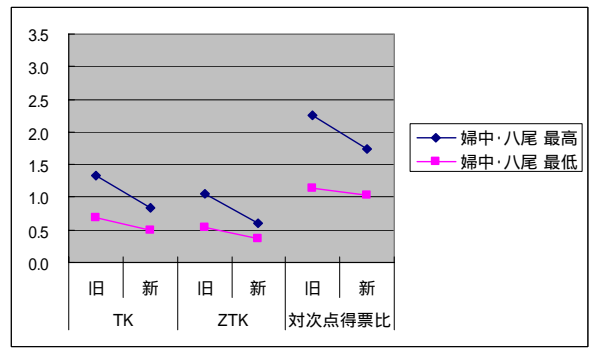
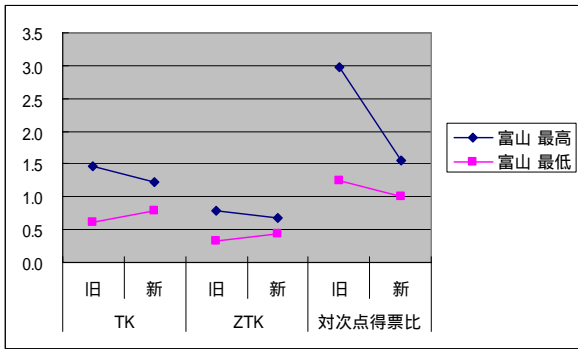
前回選挙と新市選挙で党派を変更した候補者や、当選後に特定の党派に所属した者があるが、自民党候補者ないしは保守系無所属候補者間の集票状況が前回選挙と比べて流動化したのに対して、社民党候補者と共産党候補者の得票は期待値とほとんど変わらない。特に、大沢野・大山選挙区の社民党候補者は、前回選挙でこれらの選挙区において社民党候補者に投じられた票の合計を下回っている。一般的に、選挙区規模が大きくなれば団体票の効果を期待しやすいため、勢力の小さな政党でも立候補の誘引が大きくなると考えられているし、期待される結果が生まれることも少なくない。しかし、この選挙区の場合はそのようなメカニズムはほとんど作用していない。あるいは、党派性の現われを明確にするほどの規模の変化ではないのかもしれない。後でみるように、国政選挙では一定の党派性が現れている。

得票のばらつきの比較

各候補者が集票にしのぎを削る結果、各候補者の得票のばらつきに変化が生じる。その変化がどの程度のものであるかを、いくつかの指数をみることによって検討する。次の表は三つの選挙区の当選者について、新旧のTK指数、ZTK指数、対次点得票比の最高と最低を示したものである。富山市以外の旧町については、比較の便宜上、平均値を用いた。

		TK 指数		ZTK 指数		対次点得票比	
		旧	新	旧	新	旧	新
富山選挙区	最高	1.468	1.222	0.798	0.689	2.966	1.561
	最低	0.617	0.787	0.335	0.443	1.246	1.005
大沢野・大山選挙区	最高	1.599	1.086	1.224	0.796	3.235	2.178
	最低	0.716	0.584	0.548	0.428	1.282	1.171
婦中・八尾選挙区	最高	1.331	0.833	1.060	0.610	2.249	1.750
	最低	0.678	0.491	0.538	0.360	1.147	1.032

これらの数値を選挙区別にグラフ化したものを示すと、次のようになる。



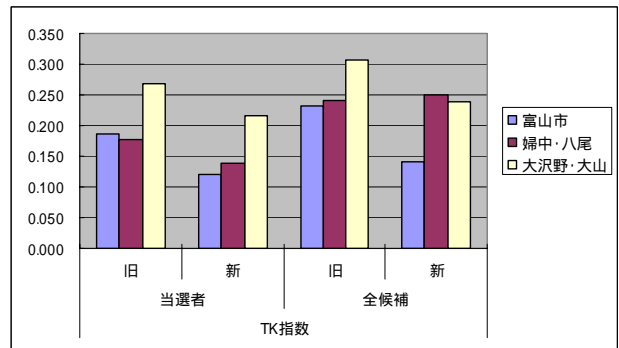
富山選挙区でTK指数とZTK指数の最低レベルが上がっているほかは、すべて下降傾向を示している。また、最低と最高を比べると、全般に最高レベルの方が下降の度合いが強い。

とりわけ、どの選挙区においても対次点得票比の最高レベルの下降の度合いが強く、最高と最低の差が大きく縮まっている様子が見られる。定数が同じではないが、この差の縮小が主に最高レベルの低下によってもたらされていることを考えると、選挙区規模の拡大が候補者間の集票状況の接近をもたらしていると言える。

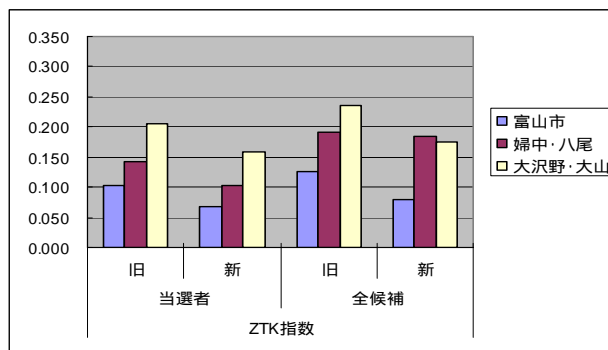
たとえば、富山選挙区では、投票率の上昇によって5600票ほど投票総数が増えているが、第1位当選者の得票数は新旧でほとんど変わらないから、掘り起こされた票の多くが各候補者に分散したことになる。

次の表とグラフは、TK指数、ZTK指数、対次点得票比の三つの指数について、それぞれのばらつきの変化の程度を標準偏差を比較することではかったものである。当落の問題よりも、候補者間の得票のばらつきが問題なので、当選者だけではなく候補者全体の数値も比較した。連続して立候補している候補者がほとんどでなければこのような比較は難しいが、ここで取り上げたケースでは新人がほとんどいないため、比較は可能と思われる。

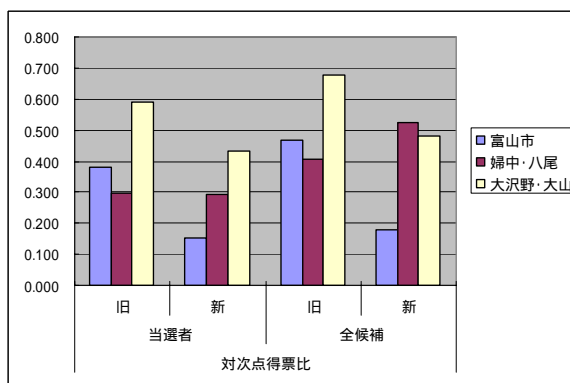
	標準偏差 (TK 指数)			
	当選者		全候補	
	旧	新	旧	新
富山選挙区	0.187	0.121	0.232	0.141
婦中・八尾選挙区	0.177	0.139	0.241	0.250
大沢野・大山選挙区	0.268	0.215	0.307	0.240



	標準偏差 (ZTK 指数)			
	当選者		全候補	
	旧	新	旧	新
富山選挙区	0.102	0.068	0.126	0.079
婦中・八尾選挙区	0.142	0.102	0.192	0.183
大沢野・大山選挙区	0.206	0.158	0.235	0.176



	標準偏差 (対次点得票比)			
	当選者		全候補	
	旧	新	旧	新
富山選挙区	0.379	0.155	0.469	0.179
婦中・八尾選挙区	0.298	0.293	0.408	0.526
大沢野・大山選挙区	0.589	0.432	0.679	0.481



TK 指数の偏差でみると、富山選挙区と大沢野・大山選挙区で、当選者、全候補者ともばらつきの程度が低下しており、前回に比べて集票状況がお互いに接近していることがあらわれている。婦中・八尾選挙区については当選者でみると同様の傾向があるが、全候補者でみるとわずかではあるがばらつきの程度が強くなっている。目立ったほどではないが、他の選挙区に比べ、当選者のグループと落選者のグループで集票力に差がついていることを示していると言えよう。

婦中・八尾選挙区は、ZTK 指数でみた場合にも全候補者で目立った変化がなく、当選、落選の両グループ間の集票力の差が他の選挙区よりもやや大きいことを示していると思われる。その上で、選挙区規模の拡大が集票力のある候補者間の差を小さくする方向で作用しているようである。この選挙区のこの傾向は、対次点得票比に最もよくあらわれている。対次点得票比の偏差をみると、当選者では新旧でほとんど同じであり、全候補では新旧でほかの指数以上の差がついている。この点でも、この選挙区で当選者、落選者のグループ間の集票力の差が出ていると考えられる。

富山選挙区と大沢野・大山選挙区については、三つの指数ともに同様の傾向を示している。大沢野・大山選挙区で数値が大きいのが、これは前にも指摘した特定の有力候補者の存在によるものと考えてよいであろう。富山選挙区は全体的に数値が小さく、旧市時代に比べてばらつきの程度も小さくなっている。他の選挙区に比べて定数が多く、さらに定数に対して立候補者の数がわずかに上回るだけであったが、選挙区規模が相対的に拡大したことに伴って、投票率の上昇にあらわれているように各候補の票の掘り起しが進み、得票のばらつきが小さくなったとみられる。事実、先にも指摘したように、旧市時代と比べて第1位当選者の得票数はほとんど

変わらない。

異なるレベルの比較

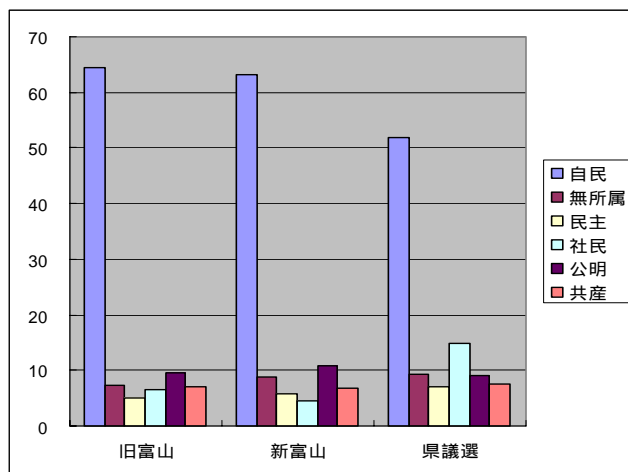
党派別得票率比較で規模の拡大と党派性の問題に触れたが、これは規模が変化するという動的な条件の下での変化の問題であった。これとは異なり、地方選挙から国政選挙にいたるまでの異なるレベルでの党派性のあらわれ方の問題がある。これはいわば静的な条件の下での問題である。集票力の変化は、党派性と何らかの関連があるであろうか。どの党派も同じような票の出方をするとはいえない。党派間を移動する投票もある。選挙区の規模が変化したときに、それが政党にどのような集票行動を促すように作用するのか、あるいは有権者の投票判断にどのような影響を与えようのか。これらの問題は検討する機会そのものが限られていることに加え、結果として出てくる選挙データだけでは十分な検討が難しいかもしれない。その行動は、選挙の戦略や戦術というような状況的、技術的判断に依存している面が少なくないであろうし、そうであるならば選挙行動全般を観察しなければならない。しかしその側面に強く入り込むと、個別の選挙ごとの事情や個性を強調することに終わってしまうおそれもある。また、選挙区規模の変化は政党あるいは候補者の政策的なアピールと絡めることによって、集票のロジックをより明確に考えることができるであろうが、地方選挙では政策的選択は包括的な政党・党派の選択の中に解消されている面が強い。

いずれにせよ、ここでみてきた例では、党派性の点でも得票状況の点でも一定の変化があり、それらは重なっているように見える。もとより、この小論で検討した傾向が単純に一般化できるわけではない。しかし、規模の拡大という条件の変化が集票の基本的なロジックを顕在化させる可能性を考えると、単に地方選挙にとどまらず、集票行動の基本的なロジックを検討するひとつの材料になりうるのではない。

最後に、県議選および衆院選比例代表の数値と比較することでその変化の程度を確認しておきたい。ただ、県議選については選挙区画が同じではないため、旧市町については旧富山市の場合に比較ができるだけである。

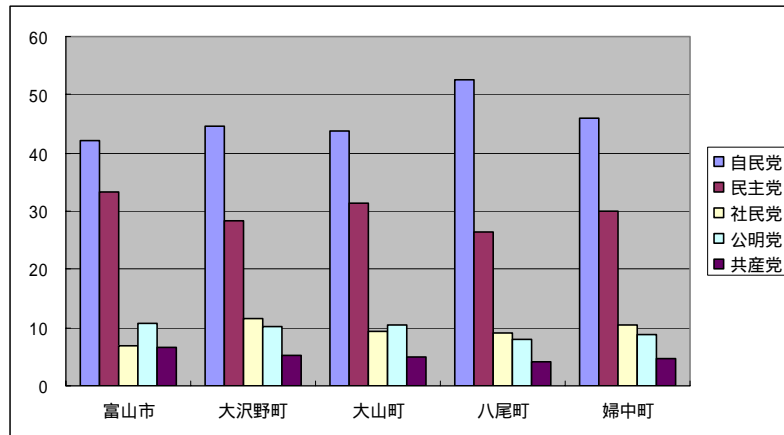
次の表とグラフは、2003年県議選の富山市についての結果を新旧富山市の結果と比較したものである。票の出方が問題なので、全候補者を含めて党派別の相対得票率を示す。県議選のレベルと比較すると、大きく異なるのが自民党と社民党であることが分かる。

	旧富山	新富山	県議選
自民	64.58	63.20	51.99
無所属	7.23	8.86	9.4
民主	5.15	5.68	7.09
社民	6.48	4.61	14.85
公明	9.45	10.84	9.11
共産	7.11	6.80	7.57



次の表とグラフは、2003年衆院選比例代表の旧市町別党派別相対得票率である。この結果によると、県議選の場合と違って、自民党と民主党の動きが相関しているように見える。

	自民党	民主党	社民党	公明党	共産党
富山市	42.16	33.40	7.02	10.75	6.68
大沢野町	44.70	28.40	11.51	10.18	5.20
大山町	43.84	31.51	9.29	10.48	4.87
八尾町	52.58	26.43	8.98	7.90	4.11
婦中町	46.08	30.08	10.58	8.70	4.56



地方選挙と国政選挙では、党派のあり方も違いが生まれることがあるが、全般に国政選挙での社民党の動員力の弱さは、民主党の政党としての定着の度合いと関連しているように見える。しかし、その定着は地方選挙のレベルではまだ確かなものではなく、労働界の編成の問題などとも関連して、社民党のある程度の集票を可能にしているようである。

参考文献

小論作成に当たって参考にしたものをあげておく。

- 蒲島郁夫 「98年参院選 自民党はなぜ負けたか」『レヴァイアサン』25号、木鐸社 (1999)
- 蒲島郁夫 「小泉政権登場で日本政治は何と訣別したか」『中央公論』10月号 (2001)
- 川人貞史 「2001年参議院議員選挙の分析 非拘束名簿式の導入と小泉人気」『ジュリスト』1213号 (2001)
- 小林良彰 「変わったのは自民党、変わらなかったのは民主党」『エコノミスト』2001年7月10日号 (2001)
- 小林良彰 「有権者は何を付託したのか」『世界』10月号 (2001)
- 小林良彰 「都議選と参院選にみる有権者の政治意識」『都市問題』第92巻第10号 (2001)
- 西平重喜 『統計でみた選挙のしくみ』講談社 (1990)
- 松原望・蒲島郁夫 「田中派圧勝自民党大敗の構図」『中央公論』3月号 (1984)
- 水崎節文 「一人区における自民党の完敗 89年参議院選挙集計データの解析から」『レヴァイアサン』10号、木鐸社 (1992)
- 水崎節文 「中選挙区制における集票構造とその変動自民党候補者の地域票の分析を中心として」『椋山女学園大学研究論集』27号(社会科学篇) (1996)
- 水崎節文 「投票行動の数理モデル 得票データからみた候補者および選挙区的地域特性」『社会と情報』(椋山女学園大学生活社会科学科紀要)第7巻第1号 (2002)
- 水崎節文・森裕城 「中選挙区制における候補者の選挙行動と得票の地域的分布」『選挙研究』10号 (1995)
- 水崎節文・森裕城 「得票データからみた並立制のメカニズム」『選挙研究』13号 (1998)
- 水崎節文・森裕城 「小選挙区比例代表並立制における地域票の動向」『椋山女学園大学研究論集』第33号、社会科学篇 (2002)
- 森裕城 『日本社会党の研究 路線転換の政治過程』木鐸社 (2001)
- 三宅一郎 『日本の政治と選挙』 UP (1995)
- 沖野安春 「選挙結果の選挙区類型別分析」 柚正夫 『日本の総選挙1969』毎日新聞社 (1970)
- 水崎節文 「得票の地域偏差よりみた選挙区特性」『岐阜大学教養部研究報告』18号 (1982)
- Hinich-ordeshook , Plurality Maximization vs.vote maximization:A spatial analysis with variable participation
APSR 64,772-792 (1970)
- Carey, John and Shugart, Matthew,"Incentives to Cultivate a Personal Vote:A Rank Ordering of Electoral Formulas" Electoral Studies, Vol.14, No.4 (1995)

(資料)

旧市町および新市選挙のデータを掲げておく。

旧富山市(2003年)

立候補者	得票数	党派	当・落	得票率
針山常喜	5007	自民党	当	3.58
田畑裕明	4582	自民党	当	3.28
五本幸正	4503	自民党	当	3.22
佐伯光一	4489	自民党	当	3.21
松本弘行	4327	自民党	当	3.09
島田幸男	4184	民主党	当	2.99
村家博	4047	自民党	当	2.89
南俊正	4043	自民党	当	2.89
長尾憲二	3979	無所属	当	2.85
市田龍一	3881	自民党	当	2.78
力示健蔵	3761	自民党	当	2.69
鋪田博紀	3701	自民党	当	2.65
高森寛	3672	自民党	当	2.63
吉田勉	3619	公明党	当	2.59
岡村耕造	3587	自民党	当	2.57
原田佳津広	3526	自民党	当	2.52
島田祐三	3522	自民党	当	2.52
高見隆夫	3506	自民党	当	2.51
堀江かず代	3413	公明党	当	2.44
赤星ゆかり	3399	共産党	当	2.43
丸山治久	3356	自民党	当	2.40
岩脇秀三	3313	社民党	当	2.37
中川勇	3304	自民党	当	2.36
堀田松一	3248	自民党	当	2.32
小沢正明	3136	公明党	当	2.24
笹木豊一	3093	自民党	当	2.21
砂子阪和夫	3059	自民党	当	2.19
佐藤則寿	3040	公明党	当	2.17
村上和久	3034	自民党	当	2.17
高田一郎	3018	民主党	当	2.16
安守忠一	2970	自民党	当	2.12
早勢健一	2969	無所属	当	2.12
柴義治	2901	社民党	当	2.07
中村均	2843	社民党	当	2.03

高田重信	2831	自民党	当	2.02
中山雅之	2751	共産党	当	1.97
神名進	2677	自民党	当	1.91
平野敏久	2572	自民党	当	1.84
志麻愛子	2403	無所属	当	1.72
矢後正孝	2104	共産党	当	1.50
青山了介	1688	共産党	落	1.21
杉原充	763	無所属	落	0.55

旧八尾町 (2001年)

立候補者	得票数	党派	当・落	得票率
宮本光明	946	無所属	当	6.21
宮前宏司	897	無所属	当	5.89
柞野勝彦	864	無所属	当	5.68
深井清作	854	無所属	当	5.61
大島満	850	無所属	当	5.58
杉山峰夫	837	無所属	当	5.50
高本茂	812	無所属	当	5.33
井沢行雄	773	無所属	当	5.08
金厚有豊	747	無所属	当	4.91
本多哲三	722	無所属	当	4.74
村山栄一	694	無所属	当	4.56
新村俊雄	650	無所属	当	4.27
春田広南	645	無所属	当	4.24
石崎寛治	617	無所属	当	4.05
江本茂雄	582	自民党	当	3.82
笹島正守	552	共産党	当	3.63
平井誠一	534	無所属	当	3.51
杉林清信	515	社民党	当	3.38
松田道雄	456	共産党	当	3.00
角間賢二	455	無所属	当	2.99
亀山繁盛	436	無所属	落	2.86
高場久義	435	無所属	落	2.86
水上新平	350	無所属	落	2.30

旧婦中町 (2003年)

候補者	得票数	党派	当落	得票率
浅岡幸夫	1327	社民党	当	6.46
村林忠信	1251	無所属	当	6.09

若林伯冶	1091	自民党	当	5.31
場家茂夫	1066	無所属	当	5.19
有澤守	1057	無所属	当	5.14
五十嵐正子	1038	共産党	当	5.05
山口和雄	1012	無所属	当	4.92
竹内文彦	1010	自民党	当	4.92
磯野博	1009	無所属	当	4.91
平田清範	1003	公明党	当	4.88
高木勲寛	977	無所属	当	4.75
中川尚孝	975	無所属	当	4.74
柞山数男	970	無所属	当	4.72
井上辰男	962	自民党	当	4.68
梶原昭	951	無所属	当	4.63
西村信啓	938	無所属	当	4.56
野原孝夫	852	無所属	当	4.15
八尾和久	819	無所属	当	3.99
青山稔	803	無所属	当	3.91
藤澤隆	712	自民党	当	3.46
藍原正行	570	無所属	落	2.77
上波光夫	156	無所属	落	0.76

旧大山町 (2003年)

立候補者	得票数	党派	当落	得票率
高尾道明	1079	無所属	当	15.39
岡本保	857	無所属	当	12.23
古山保	739	無所属	当	10.54
大田清夫	557	無所属	当	7.95
畔田武雄	551	無所属	当	7.86
山森盛光	544	無所属	当	7.76
長原満	452	無所属	当	6.45
貴場良作	447	無所属	当	6.38
須加義信	428	共産	当	6.11
荒井勝博	406	無所属	当	5.79
富永すみ子	356	無所属	当	5.08
野口孝三	329	無所属	当	4.69
堀内隆	219	無所属	落	3.12
清水ヨシコ	46	無所属	落	0.66

旧大沢野町 (2003年)

候補者	得票数	党派	当落	得票率
植野稔	970	自民党	当	7.05
宮崎周二	952	社民党	当	6.92
浅生幸子	919	無所属	当	6.68
佐々木健治	901	公明党	当	6.55
稲垣照夫	880	無所属	当	6.39
西野満男	876	無所属	当	6.37
松田彌栄	873	無所属	当	6.34
杉森克実	838	無所属	当	6.09
堀辰雄	837	無所属	当	6.08
村上太三	810	無所属	当	5.89
木下進	781	無所属	当	5.68
石坂孝夫	743	無所属	当	5.40
坂田克司	724	共産党	当	5.26
伊東慶喜	688	無所属	当	5.00
秋原伸行	672	社民党	当	4.88
長澤邦男	668	無所属	当	4.85
滝川幸雄	629	無所属	落	4.57

新富山市 富山選挙区

候補者	得票数	党派	当落	得票率
針山常喜	5100	無所属	当	3.49
市田龍一	4685	自民党	当	3.21
田畑裕明	4655	自民党	当	3.19
力示健蔵	4651	自民党	当	3.18
五本幸正	4627	自民党	当	3.17
赤星ゆかり	4579	共産党	当	3.14
松本弘行	4515	自民党	当	3.09
村家博	4486	自民党	当	3.07
長尾憲二	4386	無所属	当	3.00
佐伯光一	4351	自民党	当	2.98
島田幸男	4340	民主党	当	2.97
堀江かず江	4189	公明党	当	2.87
高森寛	4157	自民党	当	2.85
吉田勉	4074	公明党	当	2.79
浦田邦昭	4034	自民党	当	2.76
高田一郎	3950	民主党	当	2.70

佐藤則寿	3872	公明党	当	2.65
高見隆夫	3713	自民党	当	2.54
小澤正明	3698	公明党	当	2.53
鋪田博紀	3666	自民党	当	2.51
中川勇	3657	自民党	当	2.50
岡村耕造	3644	自民党	当	2.50
堀田松一	3565	自民党	当	2.44
村上和久	3556	自民党	当	2.43
島田祐三	3523	自民党	当	2.41
原田佳津広	3508	自民党	当	2.40
志麻愛子	3461	無所属	当	2.37
丸山治久	3454	自民党	当	2.36
岩脇秀三	3452	社民党	当	2.36
高田重信	3428	自民党	当	2.35
笹木豊一	3426	自民党	当	2.35
南俊正	3383	自民党	当	2.32
砂子阪和夫	3312	自民党	当	2.27
中村均	3283	社民党	当	2.25
神名進	3268	自民党	落	2.24
安守忠一	3042	自民党	落	2.08
中山雅之	2971	共産党	落	2.03
矢後正孝	2387	共産党	落	1.63

新富山市 八尾・婦中選挙区

候補者	得票数	党派	当落	得票率
宮前宏司	3520	自民	当	10.41
金厚有豊	3504	自民	当	10.36
丹波茂	3401	社民	当	10.06
柞山数男	3316	無所属	当	9.80
有沢守	3045	無所属	当	9.00
深井清作	2336	民主	当	6.91
井上辰男	2076	自民	当	6.14
村山栄一	2011	無所属	落	5.95
若林伯治	1770	自民	落	5.23
五十嵐正子	1709	共産	落	5.05
柞野勝彦	1610	自民	落	4.76
場家茂夫	1534	無所属	落	4.54
山口和雄	1444	無所属	落	4.27
八尾和久	964	無所属	落	2.85

茂住敏明	693	無所属	落	2.05
石崎寛治	452	無所属	落	1.34
亀山繁盛	438	無所属	落	1.29

新富山市 大沢野・大山選挙区

候補者	得票数	党派	当落	得票率
高尾道明	3637	自民党	当	18.09
浅生幸子	2725	無所属	当	13.56
植野稔	2094	自民党	当	10.42
稲垣照夫	1971	無所属	当	9.81
岡本保	1956	無所属	当	9.73
岡崎俊彦	1670	無所属	落	8.31
長澤邦男	1490	無所属	落	7.41
宮崎周二	1429	社民党	落	7.11
大田晴夫	1261	自民党	落	6.27
村上太三	1067	民主党	落	5.31
坂田克司	800	共産党	落	3.98